

そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第 132 号

平成30年春彼岸号

臨 濟 宗 宗 禪 寺
建長寺派

住 職 高井和正
閑栖住職 高井正俊

羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

第20回 春の文化展

3月18日(日)～21日(水・祝) 10時～16時(最終日15時半まで)

二十回目を迎える春の文化展。今回の特別展は過去十九回で特別出品を下さった皆様による展示になります。檀家さんでなくとも、入場できます。お友達をお誘いあわせてのご来場をお待ちしております。

特別展示

「十九回の特別展を振り返る」

並木恒延氏・新井達矢氏・新村彩翠氏・中村青秀氏

岡野美恵子氏・稲垣壮太郎氏・中野喜一氏・大野弘江氏

◆施茶 展示会期間中、会場内にてお抹茶をいただけます。

○春の彼岸早朝坐禅会。十八日～二十四日まで。朝六時～七時です。清々しい朝の空気を全身感じます。どうぞご参加下さい。

展示

書道・絵画・造形・写真・折り紙・民芸・俳句
編み物・尺八・パッチワーク・篆刻・山野草
陶芸・木彫等

お寺でピアノライブ

3月27日(火)
開演 午後1時30分
「江尻南美ふるさとコンサート」

江尻さんは羽村市出身で、ヨーロッパを中心に活動されています。
・お申し込みは、お寺まで電話
又はFAXで
・会費500円(小・中学生は
無料ですが、申込みは必要で
す。)

はなまつり

4月7日(土) 午後1時より
・「箏とギターの演奏」や
「花活込み実演」
・御詠歌奉詠・住職の法話

花展

4月6日(金) 午後より
4月8日(日)まで
各流派の皆様のお花をお楽しみ
下さい。

節分豆まき会

二月三日に毎年恒例の豆まき会を開催しました。本年は土曜日開催となり、例年よりも多くの皆様にご来山をいただくことができました。特に大勢のお子様にご来山をいただき、豆を撒いていただいたことが何よりも有り難い喜びでありました。

節分の豆まきは、中国から伝わった追儼（ついな）と呼ばれる鬼払いの儀式が宮中で行われ、それが一般庶民にまで広がったものです。豆をまくのは「魔滅（まめつ）」の意味があり、立春の前日、新しい春の幸福を願い豆を撒いています。

朝からお手伝いをいただきました総代さん・薬師講中・サンガの会の皆様、誠にありがとうございました。



年取りの宴 司会は中野祐司副総代長



年女をお迎えして



サンガの会の皆様が伝統の折詰めを作ってくださいました



赤鬼さんも準備万端



年取りの宴の準備も万端



沢山の皆様がのご来山をいただきました。ありがとうございました。



宗禅寺観音募金

(平成29年12月5日～平成30年3月9日)

皆様からの募金、お賽銭をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

前回繰越	27,713円	
収 入	96,281円	(除夜の鐘含む)
支 出	80,000円	
内訳	20,000円	羽村市社会福祉協議会様
	20,000円	あしなが東日本大震災 遺児支援募金様
	20,000円	建長寺観音募金様
	20,000円	西東京臨済会災害支援部様

繰 越 43,994円

「松の木」を植えました。

昔の宗禅寺の境内には、大きな木がたくさんありました。本堂の前には「枝垂れ桜」の太木、池の側には「赤松」の太木、三門の側にも「黒松」の太木。

以前から、桜や椿、草花を意識的に植えてきましたが、今回、赤松を四本植えました。池のそば、和尚の墓、西の墓地入口と。松の木は、臨済禅師が植えたところから、禅寺の象徴する木です。昨年の和正和尚の晋山を記念して植えました。これから、何百年、いずれ太木になって、人々を導いてくれるようになると思います。

春になりました。いろいろな木や草が、花を咲かせ、私達の心を、いやしてくれます。ありがたいことです。

文庫長だより 島田 秀男

昨年羽村東小学校の東側で道路工事に伴う発掘調査が行われ、敷石住居が発見されました。敷石住居は「柄鏡形敷石住居」といい、床面に平らな石を敷き詰め、円形の住居に取手がつけられた形になっていることからその名があります。縄文時代中期から後期の初頭、関東地方から中部地方にかけて見られる特有な住居です。

縄文時代というイメージは、狩猟・採集を基本とし、貧しくとも平等に集落生活を営む社会であったとか、極端には未開であり、野蛮な飢餓社会であったともいわれていました。しかし、全国的に大規模開発に伴う発掘調査の結果、最近では「定住的な集落の形成と多種多様な食料採集に特長があり、狩猟、漁撈、採集を基本的な生業とする自然と調和した



豊かな社会」であったとされています。縄文時代は、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の六つの時期に区分され、今から約一万二〇〇〇年前から約二〇〇〇前の縄文土器を用いた時代です。

縄文時代の始まりは、地球が氷期（氷河期）から完新世（洪積世）になると、気候も温暖となり、現在に近い自然環境となりました。植物は亜寒帯性の針葉樹林に変わり、東日本ではブナやナラなどの落葉樹林や、西日本にはシイなどの照葉樹林が広がりました。動物も大型動物は絶滅し、動きの速いニホンシカとイノシシなどが多くなりました。こうした自然環境の変化に対応して、人びとの生活も大きく変わり、縄文文化が成立します。

羽村市内のおもな遺跡は、北から精進バケ遺跡、山根坂上遺跡、羽ヶ田上遺跡があります。三ヶ所の遺跡は、発掘調査の結果出土した土器の編年から約五五〇〇年前から約四五〇〇前の縄文時代中期の集落遺跡であることがわかっています。

土器の編年は、土器の製作方法や形、さらに土器に刻まれた文様などの変化が時間の物差しとなっています。出土した土器が勝坂式土器であれば、縄文時代中期であるとしています。日本最古とされる土器は、

青森県大平山元（おおだいらやまもと）I遺跡から出土した、約一万六〇〇〇年前のものです。

縄文時代の住居は、竪穴住居で地面を円形や方形に掘りくぼめて、平らな土間の床をつくり、そこへ屋根をかけた半地下式住居で、内部に炉が設けられています。

市内の遺跡から発見された住居址は、精進バケ遺跡三九棟、山根坂上遺跡六六棟、羽ヶ田上遺跡一九棟です。精進バケ遺跡と山根坂上遺跡では、それらの住居址が「広場」と想定される中央の空間を取り囲むように竪穴住居址が分布する環状集落跡であるとし、縄文人が世代を次々に交代し、長期にわたる継続的な定住生活が営まれていたと考えられていました。

先ほどの土器編年から縄文時代中期としましたが、中期の年代幅だけでも約一〇〇〇年のへだたりがあります。山根坂上遺跡の範囲すべてを発掘調査はされていませんが住居址六九棟は集落が大きいとおもわれますが、中期の年代幅を考えますとどうでしょう。一棟の住居の寿命は、どんなに長く見積もっても一〇〇年程度であるとの研究成果があります。単純な数値ですが、一〇〇〇年のうち六九〇年間は人が住んでいましたが、あとの三一〇年間は山根坂上遺

跡には縄文人は居住していなかったことになりまます。

環状集落は大規模であったと理解されていましたが、生活集団は小さく、必要に応じて居住地を移動していたのです。精進バケ遺跡や羽ケ田上遺跡も同じようなことがいえますが、それぞれの遺跡は何度も居住地として選ばれたことは事実であり、縄文人が生活していくうえでの要件、たとえば日当たりや水の便がいいとか、食料確保に適した場所であったといえます。

柄鏡形住居で実際に寝てみたらどうでしょう。石だらけで背中がいたくなりませんか。だから、住居には違いありませんが、祭祀的なことに使用されたという説もあります。

縄文人は、なにも語ってくれません。ただ縄文人が残した物質的資料（土器などの遺物や遺跡）から解き明かしていくのです。それが、わたしたちの想像力を豊かにしてくれます。

参考図書

山田康弘『つくられた縄文時代』新潮選書
『新八王子市史通史編1 原始・古代』

和正和尚日單

○龍澤寺 松華室後藤榮山老師に年頭のご挨拶。 1/1

○谷中 山崎家親族の新年会へ家族四人で。叔母や従兄弟など二十八名 1/2
○お年始 檀信徒総代さんへのお年始。正俊和尚と。 1/4

○消防 出初式の準備 1/5

○宗禅寺 檀信徒総代ご夫婦の皆様と新年会。 1/6

○消防 羽村市消防団出初式。一中ブラバンの演奏 1/7

○坐禅会 今年の坐禅会初め 1/13
○薬師講 昼間は町内会の餅つきへ。ごちそうさまでした。夜、薬師講役員さんとの新年会。 1/14

○瑠璃花と花音 幼稚園も始まった。 1/16

○花展 四月花展の打ち合わせ 1/16
○ピアノコンサート 三月に開催するピアノコンサートの打ち合わせをお寺で。江尻南美さんのお母様と鈴木さん。 1/17

○宗禅寺 淵田雄先生御来山。土曜講座の打ち合わせなど。 1/19

○土曜法話 建長寺三門下で法話。寒い中二

十人の皆様が聴いて下さり感謝。 1/20

○書道 毎月一回の書道教室。一月は書初めをしています。先生は横浜から来て下さっています。大雪のため早めに切り上げる。 1/22

○大雪 子供達は嬉しそう。 1/23

○鎌倉 龍峰院閑栖和尚様の通夜へ。正俊和尚と。 1/23

○幼稚園 入園説明会へ親子四人で。制服や道具を受け取る。 1/24

○寺子屋委員会 秋川・多摩川流域での自由民権運動について 1/24

○土曜講座 神明神社総代長島辰夫さんの「神明神社」と羽村文化協会の渡部清孝さんの「羽村の文化」のお話し。私は曼茶羅。 1/27

○京都 建長寺派東京三部部内旅行へ。天龍寺など。 1/30

○建長寺 管長さんによる「大覚禅師語録」の講義拜講。 2/1

○節分豆まき会 今年は土曜日のためか、例年より大勢の皆様が来て下さりました。用意していたお菓子が危うくなり、母が急いで買い物へ。 2/3

○文化展実行委員会 第二十回目の文化展の実行委員会。すみませんが欠席致しました。 2/4

○消防 福生・瑞穂・羽村合同の研修会。

福生市民会館で講演を拜聴 2/4

○清岩院 西東京臨済会幹事会。新年総会の配布資料など最終確認。 2/5

○浅草・海禅寺 後藤榮山老師の米寿のお祝いを海禅寺にて。根岸香味屋にて祝宴。その後、東博の仁和寺展 2/8

○建長寺 管長さんによる「大覚語録」勉強会へ。 2/14

○西東京臨済会 新年総会。参加者三十五名。活動・会計報告など。 2/16

○土曜講座 淵田雄先生「宗禅寺の仏像」と平井幹廣さん「菓のお話し」。私は訳経僧。 2/17

○清岩院 西東京臨済会幹事会。新年総会の資料を欠席者に郵送。今年の研修会など協議。 2/20

○熱海 廣徳寺水口正量禅士を囲む会へ。 2/22

○消防 月一回の訓練。管内防火水槽点検へ。お寺の駐車場にも防火水槽があります。 2/23

○春の文化展 第二回実行委員会。今年は二十回目の節目。 3/3

○ゆとりぎ 防災講演会拜聴。 3/8

○土曜講座 副総代長中野祐司さんと前瑞穂町町長石塚幸右衛門先生。私は仏教の中国への伝来。 3/10

閑栖正俊和尚の足どり

昨年の除夜の鐘は四五〇人の方のご来山をいただき、皆様と共に新年を迎えました。薬師講中の皆様、お手伝いありがとうございました。

○元旦から七日までに、三〇〇人の方がお年始において下さいました。

○総代さんの皆様にお年始。檀家さんには郵送させていただきました。 1/4

○総代さんご夫婦で、お寺の新年会 1/6

○今年最初の朝粥坐禅会十六人 1/8

○早朝、玄関で右ひざをひねる。大激痛。歩行とても困難。正月早々ヤレヤレ。

○今年最初の写経会二十二人。 1/11

○今年最初の土曜坐禅会二〇人。 1/13

○宗禅寺薬師講中役員会新年会 1/14

○湯島麟祥院 小川隆先生の臨済録を読む会。東大馬場紀久先生から鈴木大拙の秘話をたくさんうかがう 1/15

○花展・花供養 第一回打合せ会 1/16

○江尻南美さんコンサート打合せ 1/17

○円覚寺で鎌倉禅研究会。『釈宗演』横田南嶺老師・小川隆先生の講演。百人をこ

える聴衆。ありがたし。 1/18

○建長寺 旧友会。石川町エステカ 1/19

○鈴木土建（田中さん）池の間玄関、階段の改修大工事にとりかかる。 1/20

○二十二日午前十時頃から雪降りだす。ドンドン積もる。綾子夜八時すぎ、福生から歩いて帰る。翌日、梅林大工さんお二人、島田秀男さん、寺族で雪かき。夕刻、和正和尚の運転で、建長寺龍峰院峯藤耕雨和尚様の通夜へ 1/22

○宗禅寺・寺子屋委員会。新年会。 1/23

○蘭溪道隆著「注心経」文字化始 1/24

○東中野ポレポレ座「巡り神楽」 1/25

○第十七回土曜講座。島田辰夫さん、渡部清孝さん、六十人。玉川苑で鶴酔会。 1/26

○田園調布 めだか空間音楽会 1/27

○八王子・廣園寺老大師津送。宗禅寺うどん教室 1/28

○『一九四一決意なき開戦』堀田江里、読了。責任なき日本の実態。 1/30

○今月から来山の方の人数を把握し始める。仏縁をどう結ぶかのため。一七八五人。（お通夜、葬儀を含めて）。 1/31

○和正和尚 建長寺吉田管長の開山蘭溪語

- 録を読む会へ初参加。 2/1
- 写経の会。二十四人の参加。 2/1
- 池の間、玄関階段完成。多謝。 2/2
- ゆとりぎで、福島徹さんの講演会。若くたくましい方々多数。 2/2
- 宗禅寺節分会 午前中からサンガの会、薬師講で準備万端。鬼さんの節分ふれ回リから、法要、カッポレ、豆まき。建長汁大好評。子供達たくさん。客殿で盛大に歳取りの宴。福生警察、振り込め詐欺防止キャンペーンに来る。参会者六百人。天気快晴。心も快晴。 2/3
- 第二十回文化展実行委員会。 2/4
- 梅林棟梁 南の間床下収納完成 2/6
- 鎌倉塾、土屋敏男さんと共に、建長寺で。パークホテル泊。渡部・稲毛さんと朝食を共に。三越でWATOの展示をみて帰山。 2/7・8
- 東博、仁和寺と御室派の仏達、へ、浅見先生と中華料理の昼食を共に。 2/9
- 鎌倉長寿寺にて望月敬生さん納骨。石塔開眼。ご自分で設計。 2/10
- 鎌倉東慶寺で、涅槃図のお絵説き、岡沢恭子さん。淑子さんと共に。 2/11
- 甲府塩沢寺厄除け地藏大祭へ 2/13
- 東慶寺 横田南嶺老師、仏光録、読解の会。南嶺老師絶好調。ありがたし。終っ

- て隣のタケルで彭丹・梅沢恵・余新星さんと夕食。 2/16
- 宗禅寺土曜講座 平井幹廣さん、淵田雄先生、三十五人聴講 2/17
- 湯島麟祥院 小川隆先生臨済録。熟読会。その後、新保祐司さんの正論大賞授賞式へ。ニューオータニ。 2/19
- 建長寺史編纂委員会へ。次に鎌倉春秋で伊藤さん・田中さん・館さんと会う。柴田孝子さんと、よろうで夕食。 2/20
- 花展打合せ。先生方と。 2/21
- 鎌倉禅研究会 彭丹さん。古川元也先生。終わって、尾崎で夕食会 2/22
- 宗禅寺、山門前。けやき銅切り。空調の本体撤去。 2/23・24
- 京都建仁寺七日会。茶礼・諷経・幾松・長楽館、嬉しいおもてなし。私はその後、承天閣美術館副館長の高橋範子さんと夕食会。帰山十一時半 2/24
- シエアル鶴見て、禅文化フェア打合せ。副島さん、正親さんの個展へ。 2/25
- ◎二月の来山者は一四三〇人でした。

お寺から皆様へ

◆南ノ間床下の収納完成

昨年開創四百年を記念して沢山のご喜捨を賜り、本堂の増築をさせていただきました。このほど、南ノ間の床下の収納が完成致しました。二月三日の節分豆まきの際に、薬師講の皆様によってお寺の備品を薬師堂裏の倉庫から移動致しました。皆様からのご寄付によって、お寺の整備が進んでおります。大変有り難く、深く感謝を申し上げます。

◆能面の御奉納

昨 year 大晦日に能面師の新井達矢先生から、開創四百年を記念して能面の御奉納をいただきました。達矢先生自らお寺にお越しいただき、納めて下さいました。お面は「黒式尉（こくしきじょう）」という名称で、能の祝言曲「式三番」にて三番目に狂言方がつとめる老人の舞



だそうで、四百年のお祝いにふさわしいお面を御奉納してくださいました。深く感謝を申し上げますと共に、皆様に御報告させていただきます。

年忌にあたる御霊位

今号からこちらの紙面にて、節目の年忌をお迎えする故人の皆様をお知らせさせていただきます。

本年四月から八月の皆様です。ご法要のお申込みはお電話でも大丈夫です。ご不明な点もお気軽にお寺にご相談下さい。ご都合でご法要をなさらない場合には、お塔婆を建ててご供養をして下さい。ご家族皆様で真心を形に表しましょう。

◆年忌霊位(四月～八月)

一周忌 平成二十九年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

五月 四日	上田 彌生
五月 六日	田邊 フミ
五月 十九日	浮田 征治
五月 二十日	田村 初枝
六月 七日	下田 ミヤ
六月 二十一日	高崎キヨ子
六月 二十三日	中野 芳夫
七月 六日	高橋 直子
七月 九日	島田 睦男
七月 十四日	斎藤ヒサエ
七月 二十七日	水村 喜代

三回忌 平成二十八年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

八月 八日	関矢 義之
八月 十七日	島田 しづ
八月 二十二日	石角作之丞
四月 十一日	中野 弘一
四月 十六日	武田 和子
四月 二十五日	小林 利子
五月 十七日	中野 圭子
五月 十八日	大野 秀雄
六月 八日	中野 年男
六月 十二日	小林 恒子
六月 二十三日	森田 節子

七回忌 平成二十四年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

七月 三日	雨倉 孝子
七月 七日	加藤 常蔵
七月 二十四日	大野 勇
七月 二十八日	島田 一
七月 二十九日	中野 光江
八月 三日	吉田 マチ
八月 十八日	中村 嘉市
八月 十八日	秋山 幹男
八月 二十五日	山本 友一
八月 二十七日	島田 文子
四月 二日	新井ヤマト
四月 十二日	石井 フミ
四月 十七日	渡辺 武夫
四月 十八日	島田 忍
四月 二十四日	中野美津江
四月 二十八日	雨倉 利子
四月 二十九日	青木チエ子
四月 三十日	後藤いま子
五月 五日	雨倉 正治
五月 七日	小原 永次
六月 十三日	島田 好明
六月 十九日	青木 紫郎
六月 二十三日	山田由紀子
六月 二十五日	市川 英夫
六月 二十六日	神藤 邦子
六月 二十七日	登坂マサ子
六月 二十八日	小野寺ケイ子

十三回忌 平成十八年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

七月 三日	田村 シゲ
七月 七日	中根 タヨ
七月 八日	島田 泰介
八月 一日	清水 益次
八月 五日	新井 作一
八月 十八日	中村トシ子
八月 二十九日	島田 千鶴

十七回忌 平成十四年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

四月 二十六日	三本トミ子
五月 十四日	中根 恵二
五月 十五日	海老原久子
五月 二十四日	黒阪 安則
五月 二十五日	雨倉 一
五月 二十七日	田村 康男
六月 八日	奥崎 ツネ
六月 十一日	中野 茂一
七月 五日	島田 源一
七月 十一日	松崎 チヨ
八月 三日	島田 信一
八月 八日	秋間 春代
八月 二十四日	増岡 克美
四月 四日	池ヶ谷喜佐治
四月 七日	雨倉小夜子
四月 十六日	中野タイ子
四月 十六日	秋山 忠吾

四月 三十日 山岸 攻
五月 二十八日 小山 建男
六月 二日 高橋 博子
六月 二十六日 串田 絹代
七月 四日 鈴木 シゲ
七月 十日 小澤 みね
七月 二十二日 中野 ミヨ
八月 二十四日 中村 正市
八月 二十八日 井田 幸男

二十三回忌 平成八年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

四月 十日 大下カヨ子
四月 十三日 金子 アイ
四月 十四日 横田 浩
五月 二十五日 小山富美江
六月 八日 島田 晴次
六月 十一日 森田 重正
六月 二十三日 島田 俊子
七月 十三日 島田庄五郎
八月 三日 植田 常雄
八月 八日 小林 静代
八月 十六日 中村 ヨシ
八月 二十九日 爲ヶ谷 廣
八月 二十九日 杉山 ハナ

二十七回忌 平成四年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

四月 十一日 中野 常作
四月 十九日 佐々木ハツ

四月 二十日 島田 一作
四月 二十一日 倉島 長吉
四月 二十六日 野村龍之助
五月 一日 大野 忠一
五月 四日 野口 明彦
五月 十四日 中村 正次
五月 二十五日 町田 京子
六月 一日 関谷 成子
七月 八日 佐藤 花香
八月 二十一日 中根 新吾
八月 二十四日 岡部 将史

三十三回忌 昭和六十一年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

五月 二十八日 雨倉 裕光
七月 十五日 太田 アイ
七月 二十六日 島田かまゑ
八月 二十四日 小林ヒデ子



葬儀後四十九日まで仏壇は 閉めるもの？

「ご葬儀後四十九日忌をお迎えするまで、ご仏壇の扉は閉めておくものでしょうか？」という問い合わせをよく受けます。

この四十九日忌間を「忌中(きちゅう)」といいます。忌中に扉を閉める風習は神道のしきたりが由来のもので、死を穢れとする神道では、神棚(神様)を穢れから遠ざける意味合いで、四十九日忌(神道では両親の場合は五十日)まで神棚を白い布や半紙などで封鎖するしきたりがあります。

仏教の仏壇は閉じなくても大丈夫です。仏壇は元々、ご家庭で仏様を拝むためのものです。お寺の本堂が御家庭の一室にあると考えていただけると分かりやすいです。仮にお寺の住職が亡くなった場合でも本堂の雨戸は毎日開けられます。仏教では死を穢れとはみませんので、四十九日忌間でも毎日拜んでいたで大丈夫です。扉は一日の終わりに閉めていただき、朝開けていただくのが良いかと思われます。

土曜講座のお知らせ

檀信徒以外の皆様の御参加も大歓迎致します。お茶代として三〇〇円。学生さんは無料です。

第二十回 四月二十九日(日)十三時～十六時

【中里介石忌】会場：禅林寺様

・法要・墓参・お話

禅林寺住職 岡崎啓純和尚

・仏教講座

住職 高井和正

・中里介石を学ぶ

宗禅寺文庫長 島田秀男先生

第二十一回 五月十二日(土)十三時～十六時

・仏教講座

住職 高井和正

・「能面のこと」

能面師 新井達矢先生

・「仕舞『羽衣』と能の装束」

金春流家元八十一世宗家

金春憲和先生

第二十二回 六月二十三日(土)十三時～十六時

・仏教講座

住職 高井和正

・私のしてきたこと

ービニールって？ー
檀信徒 浅田精利さん

・「尼僧になつて思ったこと」

福生育ち瑞穂在住・天台宗尼僧

緑川明世師

第二十三回 七月七日(土)十三時～十六時

・仏教講座

住職 高井和正

・これからの葬儀

福生島田屋造花店 島田豊さん

・これからの葬儀と墓地

閑栖住職 高井正俊

平成三十年 鎌倉禅研究会

高井正俊和尚主宰の鎌倉での聴講会です。資料代五百円と建長寺の拝観料五百円をご負担をいただきます。予約不要です。

第百四十回 四月二十六日(木) 於建長寺応供堂

・鎌倉五山と古月禅

長谷寺観音ミュージアム学芸員 三浦浩樹先生

・達磨大師の二入四行説

駒澤大学名誉教授 石井修道先生

第百四十一回 五月十日(木) 於建長寺応供堂

・建長寺開山蘭溪和尚語録の現代語訳

法政大学講師・建長寺研究員 彭 丹先生

・『鎌倉の歴史―谷戸歩きのスヌー』出版にあたって

東京大学史料編纂所教授 高橋慎一朗先生

第百四十二回 六月二十八日(木) 於建長寺応供堂

・入宋僧 円種について

元金沢文庫長 高橋 秀栄 先生

・鎌倉と浄土宗 ―― 光明寺を柱に ――

大正大学教授・慶嚴寺住職 村田 康純先生

第百四十三回 七月十九日(木) 於建長寺応供堂

・建長寺開山蘭溪和尚語録の現代語訳

法政大学講師・建長寺研究員 彭 丹先生

・禅宗の清規

―― 蘭溪道隆の清規をめぐって

鶴見大学講師・徳善寺住職 尾崎 正善先生

宗禅寺毎月の活動

― お寺で新たな自分の発見を ―

- 朝粥坐禅会……毎月第一日曜日 朝6時～8時半 一日の始まりに坐禅。坐禅後、禅の作法をおかゆをいただきます 4/1 5/6 6/3 7/1
- 土曜坐禅会……毎週土曜日 子供：夕6時～7時 大人：7時半～9時半 真の自分に立ち返る時間です イス坐禅もあります
- 彼岸早朝坐禅会……彼岸中(3月18日～24日) 毎朝6時～7時開催。短い時間で初心者向きです。
- 土曜講座……毎月一回の勉強会。13時半～16時半 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。4/29 5/12 6/23
- 写経会……毎月1日、11日、21日、1時～3時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。※3/21は春の文化展開催の為、お休みです。
- 御詠歌……毎月第1・3火曜日 1時半～3時 指導：高井淑子
- 木彫教室……毎月第1・第3土曜日 13時～16時まで
講師：新井達矢先生 場所：宗禅寺禅センター
仏像や能面を自分で彫ってみませんか？月謝5000円(道具、材料費は要別途)
- 俳句教室……毎月1回、適宜。問い合わせ先：中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会……毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分
問い合わせ：坂井陵童 ☎554-3273

○女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ―― 活動中です ――
○宗禅寺禅センターをお使い下さい。